

学長選考・監察会議議事録
(令和4年度 第8回)

令和5年3月15日(水)
15時30分から16時00分まで
法人本部3階「第一会議室」

【出席者】

経営協議会選出委員

相澤 益男 伊藤真知子 小林 裕明 里村 正治 鈴木 道子
西海 和久

教育研究評議会選出委員

是川 晴彦 中西 正樹 並河 英紀 上野 義之 佐藤 慎哉
黒田 充紀 村山 秀樹

【欠席者】 長谷川真理子

【陪席者】 渡辺監事 羽鳥副学長

議事に先立ち、羽鳥副学長から、本日の会議が規程第5条第2項に定める会議開催要件を満たしている旨の報告があった。

I 学長の業務執行状況に係る中間評価について

(1) 中間評価書(案)について

相澤議長から、本日は、前回の審議を踏まえ、議長名の「中間評価結果について」を作成するとともに、議長一任で再度「中間評価書」を修正し、委員の皆様にも事前に確認していただいたところであり、特段の意見はなかった旨説明があった。

次いで、相澤議長から、「中間評価結果について」及び「中間評価書」について諮られた結果、了承された。

次いで、玉手学長が入室し、相澤議長から玉手学長に「中間評価結果について」及び「中間評価書」が手交され、玉手学長からコメントが述べられた。

学長からのコメントは、以下のとおり。

- ・中間評価の結果をいただき、ありがとうございます。これまでの3年間に対する評価をいただいたことに、大変力づけられる思いであり、残された課題、さらに取り組むべき課題に対するご指摘は、私自身が痛切に感じているところで、厳しく受け止めている。
- ・重点事項「教育改革」「研究改革」「社会共創の推進」について、光熱費の高騰等で厳しい情勢ではあるが、事業計画を立てる際には効率的重点的資源配分を行い、これからの3年間でアウトカムを明確に示したい。
- ・研究費不正の対応を含めたコンプライアンスの推進は、引き続きの重要課題であり、来

年度も改善に向けた新たな取組を行っていく。

- ・何よりも、学長として大学が掲げる目標と向かうべき未来を全学の教職員に繰り返し語る必要があると感じており、直接語り掛ける機会を増やしているところである。
- ・学長・理事・部局長・部局構成員の意思疎通を十分に図り、ステークホルダーに対する説明を尽くして、大学の大きな変化に前向きに取り組む意識改革を進める考えである。
- ・これからもどうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

その後、今回で委員及び議長を退任される相澤議長から、任期中に取り組んできたことと次期の委員に引き継いでいただきたいことについて、学長同席のもとで議長としての総括が述べられた。

相澤議長からのコメントは、以下のとおり。

- ・第1は、玉手学長を「次期学長候補として決定したこと」。本学は、学内意向聴取を実施しないという先駆けの大学。学長選考会議がすべてを決めなければならないという、極めて重い責任を担わなければならなかった。最終的に僅差で決定したが、最も危惧されたことは学内の分断。そこで、議長名で、「分断に陥ることなく、全学一体となり、山形大学の目覚ましい発展に向けて、学長としてリーダーシップを発揮していただきたい」と申し入れた。玉手学長はこの申し入れを真摯に受け止め、「山形大学将来ビジョン」を策定し、その実現に向け全学を牽引された。
- ・第2は、学長選考・監察会議という新名称のもとに、その在り方を検討し、特に、学長選考・監察会議委員の選出方法を明確にしたこと。これまで学内委員の選出は部局長という役職指定であった。ややもすると選出母体の部局の利益代表の色が濃くなる。この度の規則改正で、経営協議会及び教育研究評議会が委員を選出するとともに、選出理由を付して報告することとされた。
- ・第3は、学長選考・監察会議の名称変更に対応し、学長の評価を整えたこと。一つは、学長の業務執行状況を確認する目的で、毎年「学長との意見交換」を実施。もう一つは、これまでも行われていた「中間評価」を見直し、まず学長に「自己評価」を行っていただき、その上で、学長選考・監察会議が評価するという方式に修正した。その際、個別評価項目ごとのランク付けを取り止め、評価コメントを列記する方式とした。それらを総括し、4段階の全体評価を行った。その集大成が今回の「中間評価」である。
- ・最後に、委員の皆様、事務局のご協力のもと、学長選考・監察会議が、山形大学に相応しく整ってきたのではないかと。私はここで退任するが、学長選考・監察会議の責務がますます重くなっている。常に見直しつつ、進化していくことを切に願っている。ありがとうございました。

次いで、玉手学長が退室された。

II その他

(1) 記者会見について

相澤議長から、本会議終了後の16時00分から、学長同席のもと質疑応答も含めて30

分程度の記者会見を予定している旨説明があった。